

いかという点を考えさせられた。

(文責 川口・高知)

## 【フィールドワークⅡ】「教科学習」

自由民権記念館を素材として歴史学習の教材を創る

ファシリテーター：上田雅子（高知）助言：成田幸夫（岐阜聖徳学園大学）

成田先生率いるフィールドワークⅡは、地域素材をもとに一人一人が課題を持って一人学びをしている学習のてびき、学習カード、ワークシートについて提案講義を受け、その後自由民権記念館に場を移して貴重な歴史の片鱗と向き合った。特に地域素材における「一人学び」においては、教師の第1段階での「子どもへの投げかけ方・出会わせ方」に重要な鍵がかかっている。子どもに向かう教師自身が、何に興味を持ったか、調べてみたいと思ったか、という生の言葉が、子どもの思考を揺り動かす。私自身、実際に記念館の興味深い資料と同時に「土佐人の『自由』『人権』への軸がぶれていない強い意志」が脈々と生きている学芸員の谷脇さんの話に引き込まれながら、そこに残ってそのままワークシートにそってきちんと学習をまとめていきたくかった。

太平洋を見渡している坂本龍馬の堂々たる姿と、いつも軸がぶれていない成田先生の成田節がだぶってきたフィールドワークだった。

実は今回立派な表紙の特別製「加藤校長先生のはりまや橋小学校構想案」の学校要覧を戴いた。これは単に夢物語ではなく、一人一人が日常の実践の中で取り組み、周囲に作っていくべき学校作りの基である。この基をもって、様々な立場、教科を活かして展開されていく学校が、この本会員の手で全国に広がっていくことが肝心であろうと、改めて考えさせられた高知大会であった。(文責 加藤・千葉)

## 【フィールドワークⅢ】「英語活動」

高知城・はりまや橋等高知の観光スポットを素材として英語活動の単元化を図る

ファシリテーター：西森智生（高知）助言：佐野亮子（上智学院）

フィールドワークⅢは、二つに分かれて活動した。「日曜市」と「よさこい踊り」である。まずは体験することからと、日曜市は実際に見学することにし、よさこい踊りは踊りを覚えることから始めた。

日曜市は、あいにくの台風接近による大雨で出店が普段より少なめだったが、大通りを1.3kmにわたり開かれている日曜市がどんなものを味わうことができた。戻ってから、外国のホームステイの子どもたちに日曜市を紹介するという設定で、二つのグループに分かれて単元を構成していった。子どもたちはどのようにコミュニケーションをとるのか、必要な会話は何か、を想定して日曜市と一緒に歩きながら紹介する活動を構成した。

よさこい踊りは、定番の踊りがないことが魅力で発展しているそうである。「鳴子を持つ、前へ進む、音楽に合わせる」ことができていれば「よさこい踊り」だそうだが、今回は基本となった伝統的な踊りを紹介するという設定で活動した。まず踊りを覚えることから、ということで、ビデオと特別講師の指導で踊りを覚えた。形になったところで、この踊りを外国の子どもたちに教えるという設定で活動を構成した。

観光気分がたっぷりの分科会で、日曜市で買った地元の田舎寿司などの食べ物を食べながらの和気藹々とした楽しい活動だったが、英語活動の楽しさと難しさを実感できた。(文責 佐久間・東京)

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉  
庶務部長 佐久間 茂和  
〒114-0003 東京都北区豊島 8-27  
フレーシエル王子神谷 2-914  
tel03-3912-2797  
e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp  
日本個性化教育学会ホームページ  
http://zenkoren.com/

日本個性化教育学会 第8号  
平成21年10月25日発行

編集責任者 事務局長 奈須 正裕  
編集 広報部 中田 泰志

日本個性化教育学会

発行

平成21年10月25日

発行責任者

加藤 幸次

## 日本個性化教育学会報

第8号

日本個性化教育学会となつての、2回目の全国大会は、南国の熱気あふれる高知で行われました。会報第8号は本学会の夏の一大行事、全国大会の報告です。

## 「子どもたちの学びを創る」 ～体験とことばをつなぐカリキュラムづくり～

1 期 日 2009年 8月8日(土)・9日(日)  
2 会 場 高知市文化プラザ かるぽーと  
3 日 程

第1日目 8月8日(土)  
9:40 開会行事(小ホール)  
9:50 基調講演 「これからの学校教育」(小ホール) 辻村哲夫 近大姫路大学  
11:00 講演「映像に見る望ましい教師像」(小ホール) 長尾順二 四国個性化教育学会会長  
13:30

|                                                                |                                                              |                                                            |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 【分科会1】(会議室)<br>「総合的な学習」<br>実践報告<br>藤本勇二(徳島・食育)<br>竹崎有紀子(高知・環境) | 【分科会2】(会議室)<br>「教科学習」<br>実践報告<br>藤田有紀子(高知・算数)<br>中村玲子(佐賀・社会) | 【分科会3】(会議室)<br>「英語活動」<br>実践報告<br>谷本和子(香川)<br>加藤万幸・松山幸代(愛知) |
| 助言:奈須正裕(上智大学)                                                  | 助言:高浦勝義(明星大学)                                                | 助言:加藤幸次(上智大学)                                              |

16:45 会務総会  
19:00 懇親会(オリエントホテル高知)

第2日目 8月9日(日)  
8:40 開会行事とフィールドワーク・ガイダンス  
9:20

|                                                                                              |                                                                                                    |                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【フィールドワークⅠ】<br>「総合的な学習」<br>かるぽーと・堀川周辺で地域の教材化を試みる<br>ファシリテーター:<br>川口加代子(高知)<br>助言:佐藤真(兵庫教育大学) | 【フィールドワークⅡ】<br>「教科学習」<br>自由民権記念館を素材として歴史学習の教材を創る<br>ファシリテーター:<br>上田雅子(高知)<br>助言:成田幸夫<br>(岐阜聖徳学園大学) | 【フィールドワークⅢ】<br>「英語活動」<br>高知城・はりまや橋等高知の観光スポットを素材として英語活動の単元化を図る<br>ファシリテーター:<br>西森智生(高知)<br>助言:佐野亮子(上智学院) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 第1日目 基調講演 「これからの学校教育」 辻村哲夫 近大姫路大学

教育基本法に「生涯学習の理念」が第3条に規定されたことは大きな意味を持っている。これは、学歴偏重社会からの脱却を示すものである。学んだことは適切に評価されるという事で、第3条に設定された事は大変重たいものがある。塾、不登校、わかることの喜びのないままの子ども達から脱却しようということである。そして、教育基本法に「家庭教育」「幼児教育」の規定を設けるとともに、「義務教育」に関する内容を充実させた。

加えて、学校教育法、地方教育公務員法、教育職員免許法の改正で教員の免許制度など、学校を取

り巻く法令が変わったことは先生にとっては厳しいものになった。しかし、三法改正は、あくまで制度のことで、目指すべきは、子ども達の学習の質がどう変わるかである。先生や教育委員会がいかに変わるかということである。

学習指導要領では、どうしても身につけてもらわなければならないものを盛り込んでいる。これを構造的に分析し教育課程を編成し、日々努力していかなければならない。個々の先生が個々の子ども達としっかりした教育をつくり上げ、「学校はわからない事がわかるところ」「昨日より今日が成長していると実感するところ」という場にしていかなければならない。そうすることで、学校の努力に子どもが応え、保護者が応援するというよい関係ができていく。

知的に力を持った自立した人間がこの社会を乗り切れるのである。  
(文責 谷口・兵庫)



## 講演「映像に見る望ましい教師像」長尾順二 四国個性化教育学会会長



4年前の香川大会のときに講演を聞いていて、今回のパート2を楽しみにしていた人は、たくさんいたのではないかな。特に前回の日本映画のときの最後に、「二十四の瞳」「機関車先生」の2本の映画の1シーンを見て、今回は何を見られるのかワクワクしたりもした。結論から言えば、今年は「奇跡の人」と「サウンド・オブ・ミュージック」であった。

ハリウッドに登場する様々な人間像としての教師の解説から始まり、戦前の名作「制服の処女」(ドイツ映画)、「格子なき牢獄」(フランス映画)、「チップス先生さようなら」「我が道を行く」(アメリカ映画)まで、リアルタイムで見ているからこそ適切な奥行きのあるコメントに会場からため息がもれた。

戦後の「奇跡の人」「サウンド・オブ・ミュージック」そして、最新作「コーラス」まで流れるように登場する教師の人間性を語られた。

そして、映画から見た望まれる教師像として、

○子どもへの愛情 子ども側に立った考え方 ○子どもとともに歩む 子どもから学べる

○明るく創造的に 自分の個性を生かして ○教師である前に人間として

を示された。

最後に、ニールの「最も良い教師は、子どもとともに笑う。最も良くない教師は、子どもを笑う」という言葉で講演を結ばれた。長尾先生は、今でも週一回は、劇場で映画を鑑賞しているそうである。

(文責 館岡・神奈川)

## 【分科会1】「総合的な学習」

### 実践報告

藤本勇二(徳島・食育) 竹崎有紀子(高知・環境) 助言: 奈須正裕(上智大学)

藤本勇二先生(徳島)の「みそ汁・おにぎりプロジェクト」は、専門家の協力を得ながら、食材をはじめ記録や感想を交換し合い交流を図った実践だった。共通性、地域性を合わせもったみそ汁やおにぎりの教材性が交流を通じて食育を可能にするということがわかり、地域の食材や旬のよさ、地域への関心の高まりなどの成果が見られたとのことだった。

竹崎有紀子先生(高知)の「山羊の飼育活動が生み出す子どもたちの主体的な学習活動」は、山羊の飼育を通して直面する問題を子どもたちが話し合いを重ねて解決していき、2年目には経験をドラムジカに創り上げ発表したという3・4年生での学級総合の実践だった。体験と言葉をつなぐカリキュラムづくりがよくできていて、子どもたちの成長の様子がとてもよく伝わってきた。

どちらも、内容の濃い素晴らしい実践発表だった。協議でも「体験と言葉は切り離せないものである」「仲間内の会話では言語能力は高まらない」など、多くの先生方から示唆に富んだよい話が聞けた。

奈須先生からは、総合と教科等との合科的・関連的指導についての話があった。教科等と関連指導をすれば時数も確保でき、学びも知的になっていく。科学と生活の統合、認識と経験の統合ということからも、教科+総合というインテグレートカリキュラムは大事であるということだった。

(文責 五十子・東京)

## 【分科会2】「教科学習」

### 実践報告

藤田有紀子(高知・算数) 中村玲子(佐賀・社会) 助言: 高浦勝義(明星大学)

・実践報告1 (高知県) 高知市立介良小学校 教諭 藤田由紀子

「ともに考え合い、ともに伸びる力を育てる算数科の指導ー4年生「わり算」の実践を通してー

「子どもが共同行為を通して新しいことを学び、自己に内化していくことに学習の本質がある」というヴィゴツキーの再近接発達領域理論をはじめとする interaction 理論を基に、児童の相互交渉がもたらす学習効果を測り、その効果を検証した4年生算数科「わり算」の実践が報告された。

・実践報告2 (佐賀県) 嬉野市立轟小学校 教諭 中村玲子

「これからの「市民」を育てる社会科学学習

ー他者とかかわりながら自分の考えを創り出す社会科学学習の指導の工夫ー

価値観が多様化した社会の中で、確かな目で社会的事象をとらえ、コミュニティを形成する「市民」として社会に働きかけていく資質や能力を育成していくことに主眼をおいた社会科3年生「市の様子は学校のまわりとどうちがうの」の実践が報告された。

助言: 高浦勝義(明星大学)

体験と言葉をつなぐカリキュラムづくりにおいては、①「習得と活用」②「評価規準から評価基準へ」③「一斉と個別」という3つの視点に留意することについて助言をいただいた。

①「習得と活用」については、基礎的・基本的な知識・理解と思考力・判断力をバランスよく指導していくことが大切である。

②評価については、「評価規準から評価基準へ」ということを常に意識しておき、子どもたちの学びの姿をイメージしておきたい。

③学習のスタイルである「一斉と個別」については、それぞれの特性を理解した指導を意識したい。(文責 川原・佐賀)



## 【分科会3】「英語活動」

### 実践報告

谷本和子(香川) 加藤万幸・松山幸代(愛知) 助言: 加藤幸次(上智大学)

香川の宇多津北小学校の実践では、英語ノートに必要な部分を取り入れて活用する取り組みが紹介された。とかく英語をしゃべることに抵抗のある教師が恐れず英語を話すことで、子どもたちも親しみを感じ、ALT と共に楽しい活動を児童が創る例が紹介された。幼小中連携をした「宇多津マスタープラン」などの取り組みが、町をあげて展開している。

東浦町立生路小学校の実践はかがやきタイムで、毎朝英語にふれる時間を全学年に取り入れている活動の紹介があった。5、6年生では、会話やゲームだけではなく、外国の文化を調べたり、知的好奇心をくすぐる活動を取り入れたりすることで、学習した成果を実践する場を意図的に設定する展開をしている。たとえばオリジナルパフェやマーケットでの買い物など、英語ノートを活用しつつ楽しいアイデアを盛り込んだ内容だった。助言では、今後の英語活動における教師の「クラスルームイングリッシュ」の活用が示され、5、6年生では理論的に学ぶことを取り入れるような英語活動に辞書の活用や読み聞かせ、またカレーを作りなど、総合的な学習の時間に英語を取り入れた活動も紹介された。

(文責 岩崎・兵庫)

## 第2日目

### 【フィールドワークI】「総合的な学習」

#### かるぽーと・堀川周辺で地域の教材化を試みる

ファシリテーター: 川口加代子(高知) 助言: 佐藤真(兵庫教育大学)

当日は、台風9号に伴う大雨で、フィールドワークは難しい状況になった。そこで、前もって準備しておいたこの地域の新聞情報をもとに、地域の特色や課題をつかみ、単元を組むことになった。

まず、助言者の佐藤先生から、新学習指導要領における総合的な学習の時間の目標についての話を伺った。続いて、ファシリテーターから地図や写真、新聞をもとにこの地域について説明した後、参加者で新聞記事を読み、共通理解を図った。

その後、子どもたちに「地域に対する親しみや愛着高め、探究的な学習に主体的に取り組むことを通して、自分たちができることは何か」を考えさせるには、どのような単元を開発すればよいかについて話し合った。

参加者が12人と少なかったので、「バスターミナルににぎわいを持たせよう」というグループと、「北見市との交流を通して、地域の特長をつかませていこう」というグループに分かれて検討していった。

今回のテーマである「体験とことばをつなぐ」という点については、新聞作り、パンフレットの作成、ホームページ作りなどを行うことを通して実現できるのではないかと考えた。

この学習を通して、総合的な学習の単元作りには「どういう能力をつけるのか」を指導者がしっかりと押さえておくことの重要性を学ぶとともに、子どもに切実な課題意識を持たせるためにはどうすればい